

# 長崎県公立大学法人の経営戦略

中央教育審議会が答申した「我が国の高等教育の将来像」7つの機能別分化類型が示されている。本学は其中で、「職業人養成」及び「地域の生涯学習の機会の拠点」、「社会貢献」を本学の最も重要な使命として明確に位置づける。即ち、学部学生の教育に軸足を置き、教員の知と学生の活力をもって、地域の文化・経済の発展に貢献することを使命とする。そのために必要な大学資源を重点的に投入していく。

それを踏まえ本学は、長崎の歴史的・地理的・文化的特色を活かした本学独自の教育を推進する。それは単に「長崎に関することを知る」ということではなく、最終的に学部学科全体として学生の個の確立（発言、提案、議論、そして協働）に資するレベルまで止揚されたものとしていく必要がある。「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育て、社会に送り出すことを目的とした大学運営を行う。世界が向かうグローバル化の中で活躍できる卒業生の輩出を目的とし、教育の自律的質保証に向けた取組を強化していく。ここで最も重要なことは、教職員ひとり一人が組織の一員としての自覚を持ち、各々の役割・責任を最大限の力で全うし、学生の成長に喜びと誇りを感じることである。そのためのガバナンスのさらなる強化にも取り組む。

具体的には、下記の取組を中心に実施していく。これらの取組を通じ、本学をより魅力に満ちた選ばれる大学へと磨き上げていく。その結果、本法人最大の収入源である授業料収入を安定的に確保し、揺るぎない財政基盤を確立していく。

## 1 教育の質保証によるたくましい人材の育成

卒業時に、「主体的に学び、長崎から世界へ発信できる学生」を育成するために、教育体系を再構築し、その質の保証を目指す。それが、長崎県立大学の学生像であると、県民のみならず全国に浸透するように、教職員一丸となって取り組んでいく。

- (1) 学生を育てる過程の明確化
  - ・ 学生の受入方針、教育課程の編成方針、学位授与方針の3ポリシーを明確化
  - ・ 組織的・体系的教育の実現による出口の質保証を徹底
- (2) 就業力の養成
  - ・ 学生の就業力（個の確立）を入学時から養成し、高い就職率を維持
- (3) 国際性の向上
  - ・ 学生の意欲を引き出す教育で、高い外国語運用能力の養成
  - ・ 本学学生の留学、本学で学ぶ留学生の倍増

## **2 魅力ある教育の実施による志願者の確保**

高校生や保護者の心に響く魅力ある教育を実施する。このために、長崎県の特徴を活かした教育の充実に取り組む。

- (1) 特色ある教育、魅力ある学問分野の創出
  - ・「しま」体験教育プログラム
  - ・「長崎学」科目群の設置
- (2) 教育環境の整備
  - ・佐世保校の建替に伴い、学生が魅力を感じ、足を運びたくなるような新しいキャンパスを整備

## **3 地域貢献の充実・研究の高度化**

長崎県から交付される運営費交付金は、授業料と並び本法人の収入の柱であり、県内唯一の公立大学として地域貢献を充実しその存在意義を示すことにより、その安定的確保に努める。また、外部資金についても今まで以上の獲得に努める。

- (1) 長崎県に関連する研究への取組
  - ・「離島」「東アジア」「長崎の地域課題」に関連する研究への重点的な取組
  - ・「アジア・国際戦略」への貢献、シンクタンク機能の強化
  - ・産学官連携の推進
- (2) 研究の高度化による外部資金の増加
  - ・第2期中期計画期間中3億5千万円以上獲得
- (3) 県民への説明責任
  - ・法人運営や教育、研究に関する情報の積極的な公表

## **4 効果的な大学運営の推進**

理事長・学長のリーダーシップの下、必要な大学資源の選択と集中を実施するなど、効果的な法人・大学運営を推進する。

- (1) 教育研究等の見直し
  - ・大学として推進する「しまプロジェクト」や「アジア・国際戦略」、「留学支援」等の教育研究への予算の重点配分
  - ・平成28年度までに物件費を1億2千万円削減
  - ・教員評価を全学的に見直し、理事長・学長が積極的に評価

(2) 分離キャンパスの組織運営

- ・分離キャンパスを「禍」とせず、「福と為す」柔軟な組織再編

(3) 効果的な情報発信、大学ブランド力の向上

- ・本学の学生像を意識させるような情報発信
- ・大学のブランド力を高めるための広報戦略

平成23年12月7日

長崎県公立大学法人理事長 清浦義廣